

第4回秋田県DX推進計画策定委員会
(令和8年1月29日開催)における意見の概要

(順不同)

○新秋田県DX推進計画(案)について

- 全体として、施策の対象者や関係者が明示されてわかりやすくなった。
- データセンター誘致について、それを誘致した先の世界観などがあればいいのではないか。例えば、AIエージェントによる対話型インターフェースを入れることで、高齢の方も便利になるなど。
- 行動計画を見るのは一般の方よりも行政関係者が多いと思うが、トランスフォーメーションを進めた後の世界がどういうものになるのか、職員や県民の方がイメージできると行動しやすくなるのではないか。「目指す姿」など、こういうくらしに変わる、明るいくらしになる、とのイメージが持てるような計画であってほしい。
- 昨年、総務省のDX推進手順書が改定され、これまで5年での見直しだったものが毎年の見直しに変わっている。それも踏まえて県計画の改定時期も考えてほしい。
- まちなかを子熊が1匹歩いただけでデジタルツールに大量の通報があがるため、観光などに悪影響が出る、学生の保護者が車を学生に買わねばならないと考えてしまう、などということが起こる。情報の質を精査・共有するという仕組みが今後必要になるだろう。
- 厚労省で令和8年度からPMH(自治体・医療機関が連携することでマイナンバーカード1枚で手続きできる仕組み)を進めることや、ふるさと住民登録制度やNFTなどを活用して、関係人口の創出を進める取組を載せてはどうか。
- デジタルシフトの解説とイメージが入り、定義が明確になった。
- AI活用に関し、AIの負の側面の観点を追加するとすれば、案のP.6あたりが適切ではないか。正しく使えるようにするガバナンス関係に触れてもいいだろう。
- 4年後のことは誰にもわからないが、今ある技術の実装が進むことと、その利便性を高めていくということにはなる。例えばAI、VR、通信機器、IOTなど。一方で、過度な期待ができないものもあり、自動運転はまだまだ実装が難しいだろうし、雪国でのデジタル技術の実装は実際どうなるのか、と思ったところ。
- 各産業のKPI目標は、業界人が見た時、一つの指標になるので、数値の磨き上げをお願いしたい。
- 各企業のデジタル化、DXの認識が違う中で、デジタルシフトの中で、デジタイゼーション、デジタルイゼーション、DXのそれぞれの段階にかかる客観的な目標があれば良い。県庁の業務に対しても同じようなことがあってもいいのではないか。
- 地域の高齢者にこういうことをどうやって広めていくのか、とか、全社会人の底上げやAIを使えるかどうかで格差が生まれる可能性など、県内全体にDXを浸透させていくためにどういう課題があって、それに対してどういう施策・工夫をしていくのか、の議論を深めてほしい。